OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	梶原三郎博士・藍綬褒章を受賞
Author(s)	三浦, 武夫
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 13, p. 27-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84633
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka



梶原三郎博士☆藍綬褒章を受賞

博士はわが国における労働衛生学の学問的体系の確立と労働衛生の発展に生涯を捧げた人であり今なお第一線にあって，精力的に日常活動をつづけておられる人である。

先生は大阪医科大学を大正10年に卒業と同時に薬理学教室（長崎仙太郎教授）に入り，14年に衛生学科（石原修教授）に転科，15年伝染病研究所に留学，更に昭和3年には在外研究員として4年間欧米に留学主としてパリのソルボンヌ大学ラピック教授の許で研究仝6年に帰朝8年に阪大教授として石原修先生のあと衛生学の講座を担当された。以降33年に大阪大学を定年退官されるまであまたの業績を残された。又その間昭和21年9月産業医学研究所が設立されると共に兼任所長となられ，日本の産業の復興に労働衛生の立場から貢献された。

又産業医学研究所は23年に府労働部に移管，労働科学研究所と改称され，一時牧亮吉博士と交替されたが33年春の退官後，仝年8月から専任所長になられ，更に35年衛生研究所と労働科学研究所が合併し公衆衛生研究所が設立されたがその所長として鋭意拡充に尽力他に類を見ない総合研究所にまで育て上げられた。

一方大阪大学では昭和27年～31年まで二期間医学部長の重責を担われ，中央図書館，放射線実験所，同位元素利用実験室，蛋白質研究所の設立等大学の再建と拡充に大きく貢献され，その手腕を高く評価された。又府行政に対しても，衛生対策審議会，防疫本部防疫対策，職業安定審議会，公害防止幹事会などの委員として又労働災害基準審議会委員，日本産業衛生協会理事，仝近畿地方会長等々と多くの公職につかれている。

御家庭では，きく夫人とお二人暮し又令嬢お二人は立派に成人されそれぞれ幸福な家庭を営んでおられる。

又先生の趣味は大変広く絵画・陶器の観賞音楽に深い造詣と見識をもっておられ，お酒は少いが煙草はお好きでダンヒルのパイプ掃除をたのしんでおられるのを見かける。

先生は大変物腰の柔い親しみ易いお人柄で話題の豊さとエスプリの輝かしさで誰でもひきつけられる。座談と講演の名手として定評があり言葉を一つ一つみがき乍ら並べてゆくような話しぶりには洒脱さとユーモアが加わって最近益々風格が増しつつある。

又先生は徹底したヒューマニストでかって大学の講義で「路傍に咲く名もなき小さな花に涙する」そんな人でないと衛生学はやれないといわれたことがある。いつの場合にも不偏不党の立場を堅持し自由な発想をさまたげるあらゆるきづなから常に自分を解放しておられる。従ってくもりのない透徹した洞察力にはすばらしいものがあり時にはとんでもないことを発言されているかに見えることも実は或時間経つとその判断が正しかったことが分ることが多い。

かっては「労働衛生」等というと危険思想呼ばわりされた時代のあったことを思うとその労働衛生学者に藍綬褒章が授与される程，労働衛生の重要さを世の中に認識させ高く評価させられた先生の生涯の御努力が正しく報いられたことを示す近来の快挙としてよろこびに堪えない。



（三浦武夫記）